

## 【原著・臨床】

## クラミジア子宮頸管炎患者における服薬コンプライアンスの検討

三 嶋 廣 繁・玉 舎 輝 彦

岐阜大学医学部産科婦人科\*

(平成 13 年 12 月 14 日受付・平成 13 年 12 月 25 日受理)

処方された薬を患者が指示された通りに服薬しているかどうかは感染症治療において重要な側面である。今回、クラミジア子宮頸管炎に罹患した女性患者における服薬コンプライアンスについて検討した。学生群、勤労社会人では分2、分3投与群で飲み忘れが多くなっていたが、主婦群では、飲み忘れの回数がきわめて低かった。飲み忘れの時間については、学生群、勤労社会人においては、分2、分3投与における朝食後の飲み忘れの頻度が高かった。飲み忘れの主な理由は、学生群、勤労社会人においては、朝食をとらない、薬を持参するのを忘れたなどであった。希望投与回数については、学生群、勤労社会人では、1回のみ投与の薬を希望するものがほとんどであったが、主婦群では、1日2回投与が多かった。クラミジア感染症の治療においては、sexually transmitted diseasesとしての位置づけを十分説明した上で、服薬指導を行うことが重要であると考えられる。

**Key words:** 服薬コンプライアンス, クラミジア子宮頸管炎, STD

処方された薬を患者が指示された通りに服薬しているかどうかは、治療上の重要な問題である<sup>1)</sup>。特に、sexually transmitted diseases (以下 STD) の場合には、抗菌薬の服用の成否が疾患の原因微生物の除去に影響を与える。クラミジア子宮頸管炎は、最近漸増傾向にある STD のひとつであるが、若年者の罹患率が高くなってきており、社会問題ともなっている<sup>2,3)</sup>。最近では、多種多様の抗菌薬が臨床応用され、服薬コンプライアンスの面からも薬剤の選択が可能になってきた<sup>4)</sup>。そこで、クラミジア子宮頸管炎に罹患した女性患者における服薬コンプライアンスについて検討した。

### I. 対象と方法

服薬状況の把握には、科学的には薬物の血中濃度の測定などが必要と考えられるが、今回は、患者側の実態および希望を詳細に知る目的で、クラミジア子宮頸管炎に罹患した女性において7日間以上の服薬を必要とした患者60名を対象として、服薬開始8日目における服薬状況について、面接方式のアンケートによる調査を行った。患者60名の年齢構成は、22歳以下の学生群30名、23歳以上の勤労社会人20名、23歳以上の主婦(無職)群10名であった。60名の薬剤投与状況は、学生群30名では、sparfloxacin (SPFX) 300 mg, 分1, 夕食後投与が3名, clarithromycin (CAM) 400 mg, 分2, 朝・夕食後投与が20名, levofloxacin (LVFX) 300 mg, 分3, 朝・昼・夕食後投与が20名, 勤労社会人20名では、SPFX 300 mg, 分1, 夕食後投与が2名, CAM 400 mg, 分2, 朝・夕食後投与が16名, LVFX 300 mg, 分3, 朝・昼・夕食後投与が15名, 主婦群10名では、SPFX 300 mg, 分1, 夕食後投与が1名, CAM 400 mg, 分2, 朝・夕食後投与が4名, LVFX 300 mg, 分3, 朝

・昼・夕食後投与が5名であった。

### II. 結 果

Table 1に薬の飲み忘れ状況を示した。学生群、勤労社会人では分2、分3投与群で飲み忘れが多くなっていたが、主婦群では、飲み忘れの回数がきわめて低かった。

Table 2に薬の飲み忘れの時間を示した。学生群、勤労社会人においては、分2、分3投与における朝食後の飲み忘れの頻度が高かった。主婦群では、飲み忘れの時期に特徴は認められなかった。

Table 3に薬の飲み忘れの理由を示した。学生群、勤労社会人においては、朝食をとらない、薬を持参するのを忘れたなどが主な理由であった。しかしながら、薬の内服開始後に症状の改善を認めたために薬を自己判断で中止した例もあった。

Table 4に、患者の薬の希望内服回数を調査した結果を示した。学生群、勤労社会人では、1回のみ投与の薬を希望するものがほとんどであったが、主婦群では、1日2回投与を希望するものが多かった。

### III. 考 察

*Chlamydia trachomatis* 感染症は増加し続けており、日本のみならず全世界でもっとも患者数の多い性感染症と位置づけられている<sup>2,3)</sup>。本症は、ほとんどの場合、症状は軽く、初感染時に治療されることが少ないのが現状であり、罹患の自覚のないまま腹腔内に広がり、知らない間に妊孕性を損なういくつかの後遺症を残すことになる。したがって、*C. trachomatis* 感染症の薬物療法の成否は、人類の存亡にかかわってくる問題でもある。

Table 1. Lack of compliance patients with uterine cervicitis caused by *Chlamydia trachomatis*

Students: 30				
Lack of compliance	Once a day	Twice a day	Three times a day	Total
0	1/3	0/20	0/7	1/30
1	1/3	0/20	0/7	1/30
2	1/3	1/20	0/7	2/30
3	0/3	3/20	1/7	4/30
4	0/3	11/20	4/7	15/30
5	0/3	4/20	2/7	6/30
6	0/3	1/20	0/7	1/30
Office employees: 20				
Lack of compliance	Once a day	Twice a day	Three times a day	Total
0	1/3	0/9	0/8	1/20
1	1/3	1/9	0/8	2/20
2	1/3	1/9	1/8	3/20
3	0/3	3/9	2/8	5/20
4	0/3	2/9	3/8	5/20
5	0/3	1/9	2/8	3/20
6	0/3	1/9	0/8	1/20
Housewives: 10				
Lack of compliance	Once a day	Twice a day	Three times a day	Total
0	2/2	4/4	3/4	9/10
1	0/2	0/4	1/4	1/10
2	0/2	0/4	0/4	0/10
3	0/2	0/4	0/4	0/10
4	0/2	0/4	0/4	0/10
5	0/2	0/4	0/4	0/10
6	0/2	0/4	0/4	0/10

Table 2. Time on lack of compliance in patients with uterine cervicitis caused by *Chlamydia trachomatis*

Students: 30			
Time on lack of compliance	Once a day	Twice a day	Three times a day
Morning	3/3	60/81	19/29
The day	0/3	20/81	9/29
Night	0/3	1/81	1/29
Office employees: 20			
Time on lack of compliance	Once a day	Twice a day	Three times a day
Morning	3/3	18/30	19/30
The day	0/3	9/30	7/30
Night	0/3	3/30	4/30
Housewives: 10			
Time on lack of compliance	Once a day	Twice a day	Three times a day
Morning	0/0	0/0	1/1
The day	0/0	0/0	0/1
Night	0/0	0/0	0/1

今回のアンケート調査の結果、学生および若い勤労女性においては、朝食をとらないことが多いことや薬を学校や会社にもっていくのを忘れることが多いことが、薬

Table 3. Reasons for lack of compliance in patients with uterine cervicitis caused by *Chlamydia trachomatis*

Students: 30	
Lack of breakfast	14
Lack of transporting action	9
Stop by self-assessment	4
Others	2
Office employees: 20	
Lack of breakfast	9
Lack of transporting action	6
Stop by self-assessment	3
Others	1
Housewives: 10	
Stop by self-assessment	1

の飲み忘れにつながっていることが判明した。また、多くの学生および若い勤労女性は、理想の服薬形態として1回のみ投薬をあげ、主婦では、1回のみ薬に対して「効果・副作用の面から心配」という声が多く、どちらかといえば否定的な見解をもつ者が多かった。1回のみ服用すればよい薬というのは、米国などでは、クラミジア感染症に対してすでにスタンダードな治療方法として認知されている azithromycin (AZM) の 1,000 mg, 1回投与を意識して設けた項目であるが、アンケート実

Table 4. Ideal frequency of oral medicine for patients with uterine cervicitis

Students: 30				
	Once a day	Twice a day	Three times a day	Total
Single therapy	3	18	5	26
Once a day therapy	0	1	1	2
Twice a day therapy	0	1	1	2
Three times a day therapy	0	0	0	0
Office employees: 20				
	Once a day	Twice a day	Three times a day	Total
Single therapy	3	8	7	18
Once a day therapy	0	1	1	2
Twice a day therapy	0	0	0	0
Three times a day therapy	0	0	0	0
Housewives: 10				
	Once a day	Twice a day	Three times a day	Total
Single therapy	0	0	0	0
Once a day therapy	0	1	1	2
Twice a day therapy	2	3	3	8
Three times a day therapy	0	0	0	0

施中にも、「本当に1回内服するだけで治る薬ができるのですか」、「私たちのように働いている女性にとっては1回内服するだけで治る薬ができれば最高です」といった声も多く認められた。AZMは、本邦においてもすでに上市されているが、*C. trachomatis* 感染症は適応疾患外とされており、適応拡大に向けて努力するべきであると考えられる。

また、今回の調査により、*C. trachomatis* 感染症についての知識がきわめて曖昧であり、症状が改善したところで服薬を中止してしまった女性も存在したことを考慮すれば、クラミジア感染症の治療にあたっては、クラミジア感染症のSTDとしての位置づけを十分説明した

上で、服薬指導を行うことが重要であると考えられる。

#### 文 献

- 1) 垣木由子, 片山博和, 中村明弘, 他: 外来患者の薬に対する意識調査。日病薬誌 33: 705~709, 1997
- 2) 熊本悦明: 性感染症 わが国における性感染症の疫学—性のあるところ感染あり (川名 尚 編)。新女性医学体系 10 女性と感染症, p.87~100, 中山書店, 1999
- 3) 松田静治: 産婦人科領域のSTD (現状, 検査, 診断)。性感染症/HIV感染 (熊本悦明, 松田静治, 川名 尚 編)。p.78~87, メディカルドウ社, 東京, 2001
- 4) Mikamo H, Sato Y, Hayasaki Y, et al.: Adequate macrolides treatment schedules for uterine cervicitis caused by *Chlamydia trachomatis*. Chemotherapy 45: 396~398, 1999

## Investigation on compliance of oral medicine in patients with uterine cervicitis caused by *Chlamydia trachomatis*

Hiroshige Mikamo and Teruhiko Tamaya

Department of Obstetrics and Gynecology, Gifu University School of Medicine,  
40 Tsukasa-machi, Gifu 500-8705, Japan

Drug compliance is an especially important issue in infectious disease therapy. We studied the compliance of oral medicine consumption in patients with uterine cervicitis caused by *Chlamydia trachomatis*. Among students and office employees, the lack of compliance was high, especially after breakfast and lunch. Among housewives, the lack of compliance was very low. The major reasons for lack of compliance were lack of breakfast and transporting action. The ideal frequency of oral medicine in students and office employees with uterine cervicitis is single therapy, and in housewives, twice a day. Guidance in drug compliance is important in therapy for sexually transmitted diseases.